

『とうおんメディカルタウン構想Plus』

1 構想の名称と意義

(1) 名称

とうおんメディカルタウン構想Plus

(2) 構想の意義

本構想は、健康・医療・福祉をテーマに、若者、子育て世代、女性を始めとする全ての市民が安心して活躍できるまちづくりの考え方をまとめたものです。東温市の“地の利”と3つの高度医療機関が有する“知の力”を掛け合わせ、市民の健康寿命の延伸を図るとともに、誰もが笑顔で暮らし続けられる新たなまちづくりの実現を目指します。

2 推進体制（構想を支える4つの柱）

東温市と3つの高度医療機関が、それぞれの専門性を生かして連携する「唯一無二」の強固なパートナーシップを築きます。

(1) 構成機関の役割

- ア 東温市 : 行政・住環境整備の主体
- イ 愛媛大学医学部附属病院 : 高度医療の創造、教育、研究及び診療の拠点
- ウ 愛媛医療センター : 信頼される医療提供及び政策医療への貢献
- エ 四国がんセンター : 最良のがん医療の提供及び最新情報の発信

(2) 推進委員会（ステアリングコミッティ）【最高意思決定機関】（8名）

- ア 東温市 : 市長及び副市長
- イ 愛媛大学医学部附属病院 : 病院長及び副病院長
- ウ 愛媛医療センター : 院長及び副院長
- エ 四国がんセンター : 院長及び副院長

(3) プロジェクトマネジメント【事務局】（医師、看護師、事務等：12名程度）

- ア 東温市 : 市長が指名する職員（事務、保健師、消防等）
- イ 愛媛大学医学部附属病院 : 病院長が指名する職員（医師、看護師、事務等）
- ウ 愛媛医療センター : 院長が指名する職員（医師、看護師、事務等）
- エ 四国がんセンター : 院長が指名する職員（医師、看護師、事務等）

(4) ワーキンググループ【事業実施担当】（実務・研究チーム：必要数）

- ア 東温市 : 市長が指名する関係部署職員
- イ 愛媛大学医学部附属病院 : 病院長が指名する関係部署職員
- ウ 愛媛医療センター : 院長が指名する関係部署職員
- エ 四国がんセンター : 院長が指名する関係部署職員

3 まちづくりの基本方針

「笑顔があふれるまち 東温」及び「誰一人取り残さない健康日本一のまちづくり」を実現するため、次の6項目を基本方針として掲げます。

- (1) 若者の定住促進 : 若者が住みやすく、結婚や定住を希望する魅力的なまちづくり
- (2) 共創型の子育て支援 : 「共働き・共家事・共育児」が社会全体で実践できるまちづくり
- (3) 女性の活躍推進 : 働く女性が心身ともに健康で、安心して活躍できるまちづくり
- (4) 病と共に生きる「安心」の社会実装 : がん等の慢性疾患を抱えていても、住み慣れた地域で自分らしく尊厳をもって暮らし続けられるまちづくり
- (5) 相互扶助のコミュニティ : 高齢者を「支えられる側」に限定せず、知識や経験を伝承する「地域人財」として尊重し、孤立を防ぐまちづくり
- (6) 「医・職・住」の効率化 : 医療機関を核として、働く場所や住む場所をデジタル技術でつなぐまちづくり

4 将来ビジョンと目標

(1) 将来像

“地の利”と“知の力”で 未来を築くまち 東温

(2) 目標 (2040 年)

ア 目標人口 : 3 万 1,000 人の維持

イ 本市の強みの維持・強化 : 国内トップクラスの「1 万人当たりの医師数」及び「病床数」を最大限に生かし、広域的な医療拠点（ハブ）としての機能を強化

ウ イノベーションの創出 : 産学官連携によるメディカルクラスターの形成及び医療観光の推進

5 重点戦略（アクションプラン）

「東温市総合計画」及び3つの高度医療機関の「理念・目標」と整合性を図りながら、以下の戦略を推進します。

(1) 育ちと学びを支える「こども未来づくり」 【基本方針(1)・(2)】

ア 医療機関と連携した安心・安全な周産期及び小児科医療体制の確保・維持

イ 2040 年の目標人口 3 万 1,000 人の維持に向けた子育て環境の充実

ウ 次世代の医療人材を育成するためのプラットフォームの構築

(2) 日本一の健康づくりと「全世代型」地域還元 【基本方針(4)・(5)】

ア 3 つの高度医療機関が共有する「患者中心の医療」の理念を市民の予防医療や健康増進施策へ還元

イ 高度医療機関が身近にある安心感を生かし、誰一人取り残さない包括的な健康支援体制の構築

ウ 地域医師会・歯科医師会との緊密な病診連携を通じた安定的かつ持続可能な地域医療の提供

エ 医療機関との連携によるがんや慢性疾患などへの理解を深める住民啓発と、患者や家族の交流拠点の整備

(3) 医療資源を生かした「人づくり・仕事づくり」 【基本方針(3)・(6)】

ア 医療従事者が働きがいと誇りを持って活躍できる労働環境の整備

イ 多様な医療専門人材の確保と、それに伴う地域経済を活性化させる「かけ算のまちづくり」の推進

ウ 東温で生まれ育ち、学び、医療に従事する「学びの地産地消サイクル」の確立

6 今後の展開（先進事例の活用）

先進的な自治体の成功事例を、本市の地域特性に合わせて取り入れ、展開していきます。

(1) 健康インフラ整備：健康管理システムを導入した民間マンションの誘致及び医学的根拠（エビデンス）に基づいた公園・遊歩道の整備

(2) スマートシティ化の推進：デジタル技術を活用した健康データの分析・活用、MaaS（次世代モビリティサービス）車両の運行、高齢者を始め誰一人取り残さない医療の充実

(3) 多世代交流拠点の創出：医療機関、保育・介護施設及び商業施設が集積した「コンパクトシティ」の深化

(4) まちの強靱化：災害に強いまちづくり及びフェーズフリー（日常時と非常時の垣根をなくす考え方）の推進

(5) 人材の地産地消：次代を担う子どもたちが医療分野を主体的に、楽しく学ぶ機会の創出（将来の医療従事者の育成）

(6) 財源の持続性確保：本プロジェクトを持続可能とするための、「成果連動型」及び「民間資金活用型」による連携事業の確保

【結び】

東温市、愛媛大学医学部附属病院、愛媛医療センター及び四国がんセンター4 者が有する強みを「かけ算」することで、持続可能で笑顔があふれる未来を創造してまいります。